

重点1 毎日の授業の充実

1A 指導方法の工夫改善（小学校）

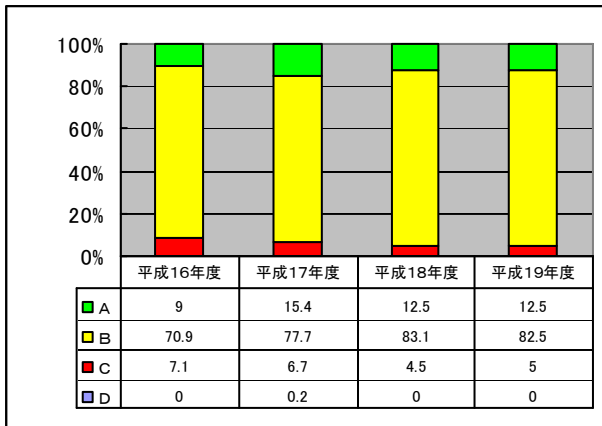
ねらい

小学校では、義務教育の開始にあたって、学校で学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、一人一人の児童に「生きる力」「共に生きる力」の基礎を育むように努めています。特に、学習することを確実に定着させるよう指導方法・内容等を工夫し、分かることの大切さやできることの喜びを実感できる授業をめざしています。

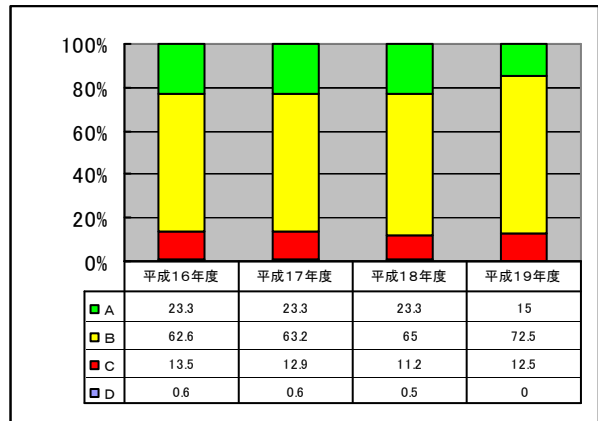
現状

○ 平成19年度の市内小学校のアンケート結果

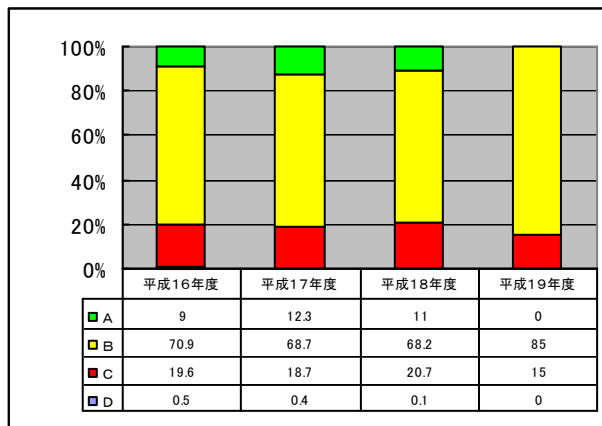
Q：基礎・基本を定着させるための授業改善・工夫を図ったか。



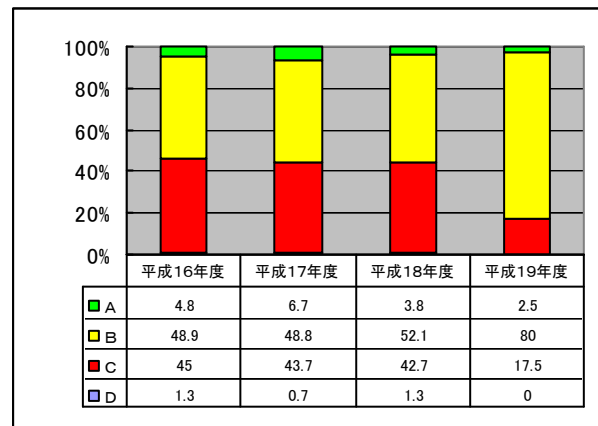
Q：個に応じた指導、一斉学習の中の個別指導を図ったか。



Q：問題解決的な学習や体験活動を重視した授業を行ったか。



Q：評価に関する研修を進め、指導と評価の一体化を図ったか。



<「A」十分、「B」おおむね十分、「C」やや不十分、「D」不十分>

※アンケートの対象はこれまでは各教職員でしたが、平成19年度からは各学校対象に実施したものです。

- ・ 基礎・基本を定着させるための授業の改善や工夫については、日常の授業の中にグループ活動やペア学習などを積極的に取り入れるなどして、個に応じた指導の充実に努めており、90%以上の学校が十分またはおおむね十分としています。
- ・ どの質問項目においても、80%以上の学校が指導方法の工夫改善に十分またはおおむね十分としていますが、その中で、「問題解決的な学習や体験活動を重視した授業を行うこと」「評価に関する研修を進め、指導と評価の一体化を図ること」については、他の項目に比べて「十分」とする学校の割合が低くなっています。このことから、今後、この項目が重点的に取り組むべき課題であることがわかります。

○ 毎日の繰り返し学習の位置づけ

- 漢字や計算、読書など、10分間程度の活動を継続的に取り組むことで効果が期待できる内容を中心に、「朝の学習」等の名称で、毎朝1限目が始まる前に位置付けて学習する学校が多くあります。
- 特定の曜日の放課後等に、補充的な学習を取り入れて実施する学校もあります。

＜始業前の学習時間の設置校数＞

平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
22校	37校	34校	37校

○ 教科担任制の状況

＜教科担任制（専科）の開設学校数＞ (全40校)

* ここでの教科担任制とは、学校として一部の教科について、教員の得意分野を生かして、年間を通じてある学年の全学級を対象に実施している場合をさします。

学年 \ 教科		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育
第1学年	平成17年度			1校			1校			
	平成18年度						3校	1校		2校
	平成19年度	1校		1校			4校	1校		
第2学年	平成17年度			1校			2校			
	平成18年度	2校					9校	1校		
	平成19年度	5校		1校			11校	2校		
第3学年	平成17年度	2校		1校	1校		17校	8校		1校
	平成18年度	1校		1校	3校		28校	8校		1校
	平成19年度	2校		2校	4校		33校	4校		
第4学年	平成17年度	1校		1校	1校		23校	12校		
	平成18年度	1校		1校	2校		33校	19校		1校
	平成19年度	4校		2校	4校		36校	17校		
第5学年	平成17年度	2校	2校	1校	2校		20校	8校	15校	2校
	平成18年度	2校	1校	1校	6校		33校	8校	26校	1校
	平成19年度	3校	1校	2校	4校		34校	6校	27校	
第6学年	平成17年度	2校		1校	4校		21校	8校	17校	
	平成18年度	3校	1校	1校	6校		31校	7校	26校	1校
	平成19年度	3校		2校	6校		36校	9校	27校	

- 平成17年度から実施され始めた国語科、算数科での教科担任制は、各学年で増加しています。
- 3年間の変化の特徴としては、いわゆる専科と呼ばれる音楽科・家庭科での教科担任制実施校が、19年度が最も多くなっていることなどがあげられます。

課題（今後の方向）

- 授業の質を高めるためには、授業研究会等、実際の授業を見合いながら、次のことを研修していくことが重要です。
 - 評価が子どもの学習の促進や教師の指導の改善に生かされるといった、指導と評価の一体化の実現のための効果的な手立て
 - 問題解決的な学習や「実生活」に関連させた体験的な学習を積極的に取り入れるなど、学習意欲の向上に向けた内容や方法の工夫
 - めざす学習目標やつきたい力を明確にするとともに、子どもたちの進歩の状況を的確に把握し、その後の指導に生かしていくこと